

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	三谷 温
主な担当科目	ピアノアンサンブルⅠ①,室内楽特別演習①室内楽特別演習②,実技個人レッスン[ピアノ①,ピアノ実技Ⅰ②,ピアノ実技Ⅰ③,ピアノ実技Ⅰ④,ピアノⅠ①,ピアノⅠ②,ピアノⅠ③,ピアノⅠ④,音楽芸術表現実技(ピアノ)②,博士特別表現研究③]
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	シラバスに準拠し、且つ学生各々の個性に合わせた指導を行う。引き続き、学生及び自らの身体及び精神の健康を保つことにも十分に留意する。
2023年の教育に関する自己評価	目標は概ね達成できた。90パーセント以上とした理由は、昨年度と同様に、各学生・授業に関する準備・研究等の量(時間)と質(集中するための体調管理など)の向上に務めた結果、レッスン・授業の内容・密度が充実していたという自覚を持てたことによる。
2023年のFD活動に関する自己評価	所属する鍵盤楽器の学内組織FD研修会の他、関係するFD委員会に全て出席した。大学全体の取り組み、問題点などを総合的に理解するようにつとめた。
授業改善のために取り入れた研修内容	多様な学生に配慮した指導について。コースの特徴、カリキュラム・シラバスについて。

2023 年度(前期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:0126 教員名:三谷 温

1)アンケート結果に対する所見

(前期)該当科目のピアノ指導法特論に関して、Q10 の総合的満足度および、Q1「自分はこのレッスンのシラバスを読み、教育目標と学修成果を理解している」から Q5「自分はこの授業に興味や関心を持って 出席している」、および Q9 が 100%の回答であった。アンケート結果は概ね良いのだが、問題は 37 名の受講者数のうち回答数が 5 名と極めて少なかった点で、この科目の取りまとめの教員の 1 人として、アンケートのインフォメーションをもっと徹底するべきであったと猛省している。

自由記述欄には、3 名から「ピアノに関する様々な視点での授業で勉強になった」「熱意のある授業である」「ピアノを教えるために勉強になりました。」以上の回答があった。

2)要望への対応・改善方策

特に要望は書かれていなかったが、近年、個々の学生の能力や気質、意欲の差が大きくなる傾向がある中では、特にクラス授業において、できるだけ等しく全ての学生の学修成果をあげるということは、難しいことだと感じている。セメスター制の導入へ向けて、検討が喫緊の課題であると思われる。

3)今後の課題

オムニバス形式・複数教員によるこの講義は、内容が多岐にわたるため、復習の重要性、および学修目的等を、学生に引き続きしっかりと伝えることを心がけたい。

以 上

2023 年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:0126 教員名:三谷 温

1)アンケート結果に対する所見

レッスンに関しては、総合的満足度 Q10 が長らく「そう思う」のみ 100%の回答であったが、今回は5名のうち1名が「少し思う」になったため「そう思う」は 80 パーセントになった。一昨年は 16 名の受講者数にうち回答数が 11 名であったのに対し、昨年は 15 名のうち回答者数は 4 名、今年も 18 名中5名と極端に少なかった(アンケートのインフォメーションだけではなくレッスンや授業時間中などその場で記入させるなど方策が必要かもしれない)。

「ピアノ指導法特論」(受講者数 37 名のうち回答者数は 5 名)では、予習・復習を問う Q8 の回答において、「あまり思わない」との回答者が今年も若干名(2 名)いたが、期末のレポート課題に必要な復習をしっかりとするように指導したい。その他は概ね肯定的な回答となっていた。「事務的な連絡を早くして欲しい」との要望が自由記述にあった。

「ピアノアンサンブル I ①」の総合的満足度 Q10 が、今回も昨年に引き続き「そう思う」が 100%の回答となった(受講者数 26 名のうち回答者数は 10 名)。

2)要件への対応・改善方策

レッスンにおいては、引き続きレッスンの中でコミュニケーションを取り、学生の気持ちや意見をできるだけ汲み取るよう心がけたい。これまで同様、シラバスの内容、学習成果等については常に留意・点検し、個々の学生の特質を熟慮し、引き続き慎重にきめ細かく指導に取り組みたい。準備を万全にして情熱をもって、集中力を保ちレッスンに臨めるような時間割の作成も心がけたい。

「ピアノ教養特論」の自由記述欄に「事務的な連絡を早くして欲しい」という趣旨の記述については、今年も第1回目の講義でしっかりと必要な情報を伝えていくと共に、学期途中での再インフォメーションも取り入れたい。

3)今後の課題

多様な入学者を迎え入れている現状(個々の学生の能力や気質、意欲の差が大きくなる傾向がある中)において、できるだけ等しく全ての学生の学修成果をあげるということについての検討を加速させることが課題であろう。セミスター制の導入に際して科目の統廃合が必須だが、その際に能力別クラスの積極的設置についての議論も重点的にするべきだと感じている。この点については、部会単位ではなく、横断的に、全学的に検討する機会が必要なのではないだろうか。

以上